



アイヌ民族博物館の屋根 22年ぶりのお色直し！

アイヌ民族博物館が昭和59年にオープンして22年、初めて屋根の再塗装を実施しました。塗装工事は5月15日～6月15日の約1ヵ月間で、博物館の屋根の面積1,437㎡に耐久性の高いウレタン塗装が施されました。また、博物館入口周辺も合わせて再塗装がおこなわれました。博物館の屋根については塗装の劣化が著しく、雨漏りなどでの文化財への悪影響が懸念されてきました。このたび、平成19年度日本郵政公社の年賀寄附金配分事業へ「アイヌ民族博物館の屋根塗装劣化による再塗装事業」の申請が採択され、総事業費7,108,500円のうち5,000,000円が認められ、22年ぶりのお色直しとなりました。(村木美幸)



平成19年度 年賀寄附金配分事業
この施設は、年賀寄附金の
助成を受けて改修しました。

塗装が完了した博物館本館

「アイヌ語地名を歩く 山田秀三の地名研究から・・・2007年 胆振/日高」

北海道やかつての樺太、千島列島、東北各地の地名には、アイヌ語に由来するものがたくさんあります。川や山、湖、岬との名前など、その土地の形を表したものや暮らしと関わって名づけられたものなどがあります。

この企画展はアイヌ語地名の研究で知られる、故・山田秀三氏（1899～1992）の研究資料から、地名研究を進める中で作成したファイルや写真資料などの関連資料を紹介するもので、苫小牧市立図書館をはじめ、室蘭市、伊達市、平取町、日高町で開催されます。主催は北海道立アイヌ民族文化研究センターです。

アイヌ民族博物館では白老周辺の資料を中心に、山田氏の研究手法などを写真やパネルなどで紹介するとともに、昭和59年、博物館オープン後初の定期講演会「アイヌ語と地名」の講演録も紹介します。(村木美幸)

●開催期間：平成19年8月18日(土)～9月17日(月)

●開催場所：アイヌ民族博物館 特別展示室

あたらしいトンコリ体験・販売スタート

昨年からはじめ、好評をいただいているトンコリ演奏体験学習が新しくなりました。参加者のみなさんから「やはり実物に近いものを弾いてみたい」という声が寄せられたため、新しい練習用トンコリをそろえました。当館で製作したやや小型のトンコリをモデルに、北海道を代表するクラフト作家丹野則雄氏が製作を依頼し、70台を用意しました。調弦が安定し、小型ながら響きもなかなかです。弦には、全て絹弦を用い、本格的なトンコリの演奏をより多くの方に体験していただけるようになりました。

6月25日に白老東高校の1年生約120名が利用し、その後も札幌学院大学の留学生グループや虎杖中学校の生徒たちが学習を行っています。トンコリだけでなく、古式舞踊体験と組み合わせるなど今後色々な広がりを考えていきたいと思えます。



◆丹野氏製作のトンコリ↓



◆↑体験1号となった白老東高校 のみなさん

丹野氏製作のトンコリは販売も行っています。

これまでトンコリ奏者の千葉さんや、東京音大の方々などからご注文をいただきましたが、音質・価格ともに大変好評です。

販売用のトンコリはアイヌ民族博物館と丹野氏のロゴ入り、専用の布ケース付で定価 43,000 円です。(北原次郎太)

アイヌ語教室のご案内

○8月10日(金) 初級編4

○8月11日(土) 中級編3

講師: 本田優子氏(札幌大学文化学部教授)

場所: 博物館研修室(2F) 時間: 17:30~19:00